

自尊感情が LINE 依存に与える影響について

—青年期の愛着関係に着目して—

16008PCM 佐橋 美妃

I. 問題と目的

LINE とは、ソーシャルネットワーキングサービスにおけるコミュニケーションアプリである。LINE は知人同士のクローズドな関係を重視しており、友人との居心地の良いコミュニケーションを求める大学生には最適なツールである (植田, 2013)。一方で、LINE が若年層の利用者にとって心理的負担になっていることが問題となっている。その原因として LINE の既読表示機能が挙げられ、返信が来ない不安や早く返信しないといけないというプレッシャーから常に LINE をチェックすることで、LINE 依存に繋がると推測される。仁尾他 (2009) は、友人関係に不安や葛藤を強く感じる者ほど携帯メール依存傾向が強いと示唆しており、対人関係での不安や葛藤は自身への評価や価値概念に関わる自尊感情の低さによるものと考えられる。自尊感情は養育者との愛着関係が支えとなり、その後身近な信頼できる人との共有体験を重ねることで、より強固に形成されていく (近藤, 2010)。青年期は、自己に関心が向けられる時期であることから、他者との関わりの中で自尊感情を育むための重要な時期となりうる。

以上から、LINE 依存には自尊感情と愛着関係が関連していると考えられる。本研究では、LINE 依存を測定する尺度を新たに作成し、個人の自尊感情と他者との愛着関係が LINE 依存に与える影響について検討することを目的とする。

II. 研究 1

1. 目的

個人の心理的要因や対人関係の特徴を考慮した LINE への依存を測定するための尺度を作成する。

2. 方法

調査協力者：私立 A 大学に通う大学生 203 名 (男性 34 名, 女性 169 名, 平均年齢 19.4 歳, $SD=0.74$) を対象に質問紙調査を実施した。

調査手続き：調査は 2017 年 5 月～7 月に実施した。

講義時間内に質問紙を一斉配布した。

質問紙構成：携帯メール依存尺度 (五十嵐他, 2005) を LINE 依存に適した項目になるように修正し、また加藤 (2016) による LINE の既読無視と未読無視が不快な理由についての回答内容を参考にし、項目を作成した。尺度の併存的妥当性を検討するため、大屋 (2017) が作成した LINE 依存傾向尺度を使用した。フェイスシートは性別、年齢の記入を求めた。

3. 結果と考察

因子分析の結果、「既読に対する不安」、「常時利用」、「対面コミュニケーション不安」の 3 因子が抽出された。尺度の併存的妥当性を検討するため、LINE 依存傾向尺度との尺度間の相関係数を算出した。その結果、LINE 依存尺度は LINE 依存傾向尺度 ($r=.80$, $p<.01$) との間に強い正の相関が示された。本研究において作成した LINE 依存尺度には、既存の LINE 依存傾向尺度にはなかった「対面コミュニケーション不安」因子が見出された。岡本・高橋 (2006) は、対面コミュニケーションでは相手との親密さによって対人緊張に違いがみられるのに対して、携帯メールは親密さに関わらず対人緊張に違いがみられないということを示唆していることから、携帯メールでは日常において親密でない相手に対して緊張感を感じにくくなるのではないかと考えられる。このことから、対面コミュニケーションにおける対人緊張が携帯メール依存に関係していることが推察されるため、LINE 依存には対面コミュニケーションに対する不安が影響していると考えられる。

III. 研究 2

1. 目的

個人の自尊感情と他者との愛着関係が LINE 依存に与える影響について検討する。

2. 方法

調査協力者：私立 A 大学に通う大学生 229 名 (男性 44 名, 女性 185 名, 平均年齢 19.8 歳, $SD=1.26$)

を対象に質問紙調査を実施した。

調査手続き：調査は2017年11月に実施した。講義時間内に質問紙を一斉配布した。

質問紙構成：研究1で作成したLINE依存尺度、自尊感情尺度（小塩, 1998）、日本語版成人愛着スタイル尺度（中尾・加藤, 2004）と親友版 ECR（加藤, 2001）を参考にし、それぞれ文章が共通している項目、フェイスシートから構成された。

3. 結果と考察

LINE 依存尺度の因子分析を行った結果、「既読に対する不安」、「常時利用」、「対面コミュニケーションの省略」、「LINE 利用と対面コミュニケーションの密着」の4因子が抽出された (Table 1)。続いて、自尊感情と愛着関係が LINE 依存に与える影響について検討するため、強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、「既読に対する不安」については「他者からの評価過敏」($\beta=.18, t=2.709, p<.01$)の有意な正の効果が、「見捨てられ不安」($\beta=.34, t=4.730, p<.01$)の有意な正の効果が、「親密性の回避」($\beta=-.22, t=-3.380, p<.01$)の有意な負の効果がみられた。「常時利用」については「親密性の回避」($\beta=-.21, t=-2.979, p<.01$)の有意な負の効果がみられた。LINE 依存における「既読に対する不安」は、本研究において自尊感情と愛着関係の両方の特性から影響を受けていることが示された。また、時岡他 (2017) が既読表示機能のために返信を先延ばしにされていることが視覚的に明示されるため、不安が一層掻き立てられる可能性があると思われていることから、「既読に対する不安」は LINE

依存の重要な要因であると考えられる。

IV. 総合考察

本研究では、対人関係の特徴を考慮した LINE 依存尺度を作成することを目的としていたが、「対面コミュニケーションの省略」と「LINE 利用と対面コミュニケーションの密着」の2つの下位尺度については対人関係の特徴との関連はみられなかった。しかし、本研究で作成された LINE 依存尺度は日常の対人関係の特徴だけでなく、別の要因と関連があることを意味していると考えられる。したがって、本研究で作成された LINE 依存尺度は対人関係の特徴との関連性のある下位尺度だけでなく、それ以外の要因と関連している可能性のある下位尺度を見出したことが、従来の LINE 依存傾向尺度との大きな違いであると言えるだろう。

無藤他 (2006) は、青年期では重要な他者が自分についてどう思っているかが個人にとって重大な関心事となると述べている。本研究においても、既読が表示されないことにより相手から自分がどう見られているか疑念を抱いたり、反対に早く返信しないことで相手から嫌われてしまうのではないかと不安を感じたりすることが推察された。こういった他者からの評価や反応に対する思い込みの強さは、社会不安とも関連性があるのではないかと考えられる。また、LINE 依存の要因となる心理的特性は自尊感情と愛着関係だけでなく、それ以外の様々な要因が存在すると思われる。そのため、LINE 依存に影響を与えている心理的要因については今後も検討していく必要があるだろう。

Table 1 LINE依存尺度の因子分析結果

項目	I	II	III	IV
I. 既読に対する不安 $\alpha=.900$				
13 既読をつけても返信しないことで、自分は後回しにされていると感じる	.82	.03	-.05	-.04
19 既読がついているのに返信がないと、その理由を色々考えて不安になる	.79	-.09	.03	.04
07 既読がつかないと、相手は返信するのが面倒で読んでいないと思いきや不快を感じる	.77	.11	-.08	-.12
04 既読をつけるだけで返信がないと悲しくなる	.75	-.05	.10	-.03
10 既読がつかないと、自分は後回しにされていると感じる	.74	.09	-.12	-.06
21 既読がついていないと、相手はメッセージを読む時間があるのにもかかわらず、意図的に読まないように思えて不快を感じる	.73	.08	-.06	-.02
01 既読がついているのに返信がないと不安になる	.64	-.07	.11	.03
17 既読がついているのに返信が来ないと、相手が意図的に無視していると感じる	.63	.20	.05	.02
23 既読がついているのに返信がないと、相手を傷つけることを書いてしまったかと考えてしまう	.49	-.27	.11	.24
15 既読をつけるだけで返信しないのは失礼だと思う	.46	-.14	.14	.16
II. 常時利用 $\alpha=.837$				
02 目の前の友だちと話しているときでも、LINEをしてしまう	.00	.69	.12	-.04
14 授業中でもLINEが来たら、すぐに内容を確認する	-.01	.69	-.08	.02
20 一人になったときには、すぐにスマートフォンを取り出してLINEをする	.14	.66	-.08	.00
11 食事をしながらLINEをすることがある	-.07	.66	-.04	-.01
08 友達と会話している途中でも、LINEの通知があればスマートフォンを確認する	-.10	.62	.06	.16
05 人と話しながらでも、LINEを打つことがある	-.02	.61	.27	.01
16 何時間も続けてLINEのやり取りをすることがある	.04	.53	-.05	-.01
III. 対面コミュニケーションの省略 $\alpha=.774$				
06 重要な話でもLINEで済ませてしまうことがある	.03	.02	.87	-.12
03 大事な話を口頭や面に向かってするのではなく、LINEで済ませてしまう	.07	-.04	.82	-.04
18 食って話せばよいことをLINEで伝えてしまう	-.07	.26	.40	.15
IV. LINE利用と対面コミュニケーションの密着 $\alpha=.663$				
24 LINEが使えないと、普段会えない友達と気軽にコミュニケーションが取れなくなる	-.06	.04	.00	.75
09 LINEが使えないと、直接会えない友達との関係が希薄になると思う	.16	.10	-.18	.59